

## 事例研究報告

**特別支援学校小学部の児童に  
お尻を出さずに排尿するスキル  
を教える**

## 保護者の願い

「お尻を出さずに排尿してほしい」



どんなズボンでも、お尻を出さずに  
排尿できたら生活の質が高まる。  
どうしたらいいんだろう。

## 生徒の実態

- 知的障がいがある小学部の男子
- 本児は昨年度まで、洋式トイレのみ使用していた。
- 本児は、個室トイレを使いたがった。
- スキル不足というよりも、「立位で排尿することを知らなかった」ことも考えられた。

## 教員の考え

「お尻を出さずに排尿させたい」

「この取組を小学部全体に広げたい」



## アドバイザーからの助言

制服，体操服時の排尿について

### 「課題分析」

を行い，計画的なプロンプトを出すことと記録を取るところから始めましょう。



## 指導目標の見直しと課題分析

アドバイザーである先生の助言を受け、授業で指導できるように、そして指導の成果が確認できるように、短期目標を3ステップで課題分析し、より具体的な指導目標として書き出しました。

Step1 : 制服のズボン(ベルト装着時)

Step2 : 体操服のズボン(ベルト非装着時)

Step3 : 制服のズボン(ベルト非装着時)

※ 上記の3ステップで実践開始を決定しました。

### 指導目標

- ・どんなズボンでも小便器の前に立って  
‘おしり’を出さずに排尿することができる。

## 記録方法と記録

指導の成果を確認するために、指導目標がどのくらいできるようになったかを記録する方法を決めました。

そして指導を始める前に、どのくらい指導目標が実行されているかを、記録しました(これを「ベースライン」の測定と言います)。

### ステップ1からステップ3の記録方法

- 一人でできた・・・2p,
- 声かけでできた・・・1p,
- 身体的プロンプトでできた・・・0p

として各項目の和をグラフ化しました。

## ステップ1: 制服のズボン(ベルト装着時)

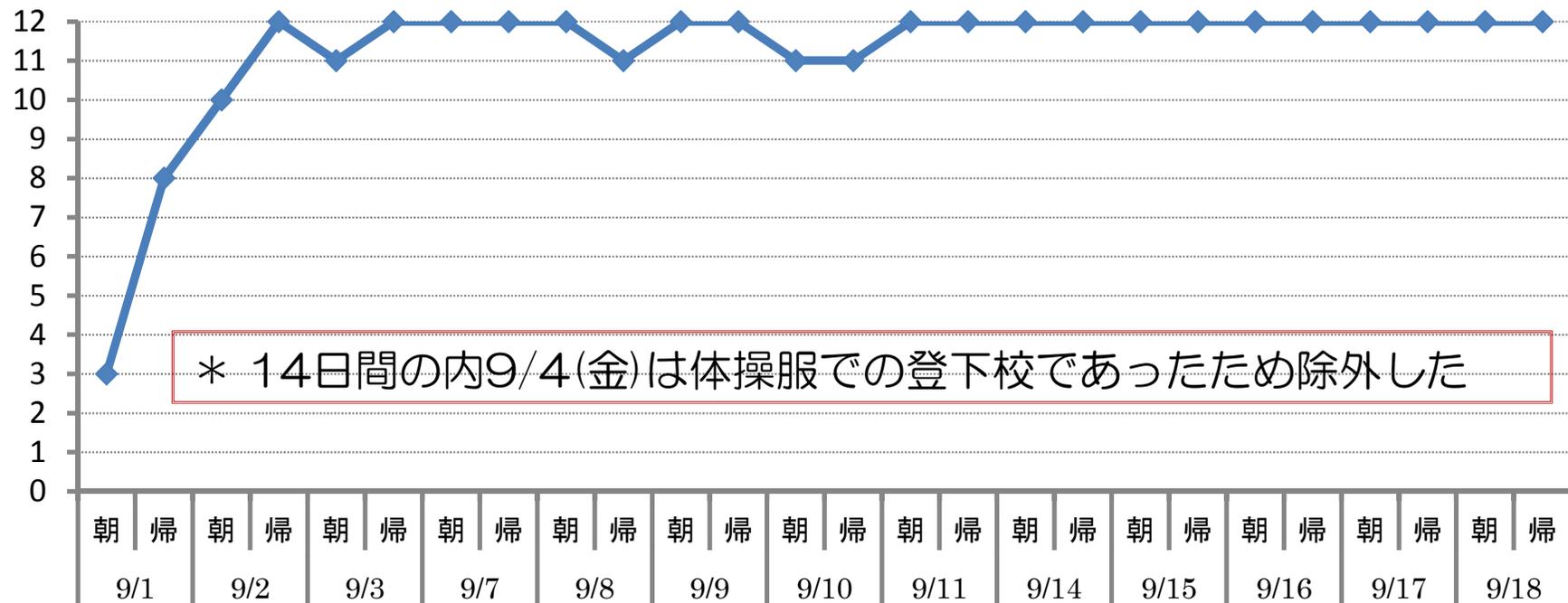
- ①小便器の前に立つ
- ②右手でチャックを開ける
- ③両手でパンツを下げる
- ④両手でパンツを持ったまま排尿する
- ⑤パンツを上げる
- ⑥右手でチャックを閉める

- ①声かけ
- ②身体的プロンプト
- ③身体的プロンプト
- ④身体的プロンプト
- ⑤身体的プロンプト
- ⑥身体的プロンプト

☆ プロンプトは身体的→声かけでフェイドアウトさせていく

## ステップ1の成果

本プロジェクトに参加した児童のうち、特に同学年児童同士で、正の相乗効果が生じ、今現在、全員‘おしり’を出さずに排尿することができるようになりました。



達成基準: 確実に定着が見込める期間(2~3ヶ月間)。

## ステップ2: 体操服のズボン(ベルト非装着時)

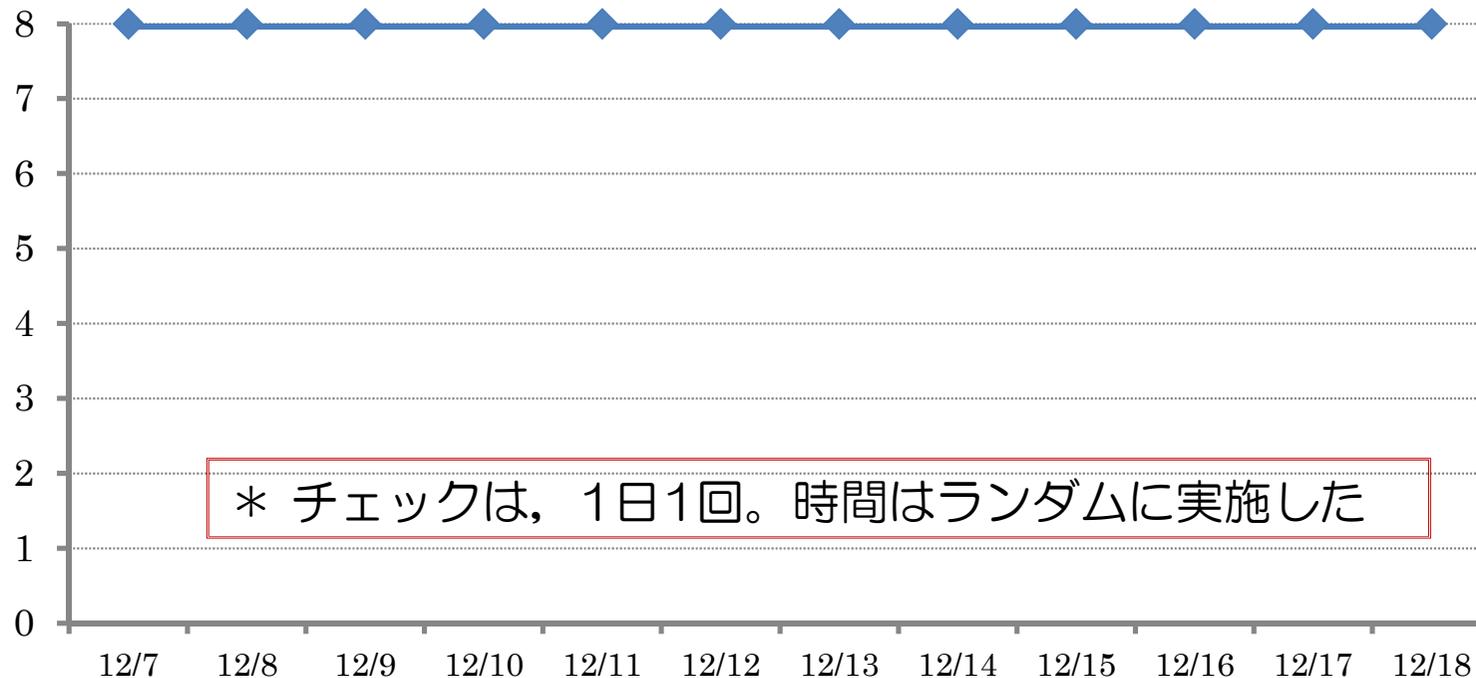
- ①小便器の前に立つ
- ②両手で体操服のズボンとパンツを下げる
- ③小便が終わるまで両手で体操服のズボンとパンツを持つ
- ④用をたした後体操服のズボンとパンツを元の位置に上げる

- ①声かけ
- ②身体的プロンプト
- ③身体的プロンプト
- ④身体的プロンプト

☆ プロンプトは身体的→声かけでフェイドアウトさせていく

## ステップ2の成果

- 本プロジェクト実施にあたって、周りの教員が共通理解しており、賞賛の言葉がけをしてもらうことが、Mさんのよりいっそうの行動意欲や自尊感情を高める要因になりました。



達成基準：8点満点を連続10日以上とれた場合

## ステップ3: 制服のズボン(ベルト非装着時)

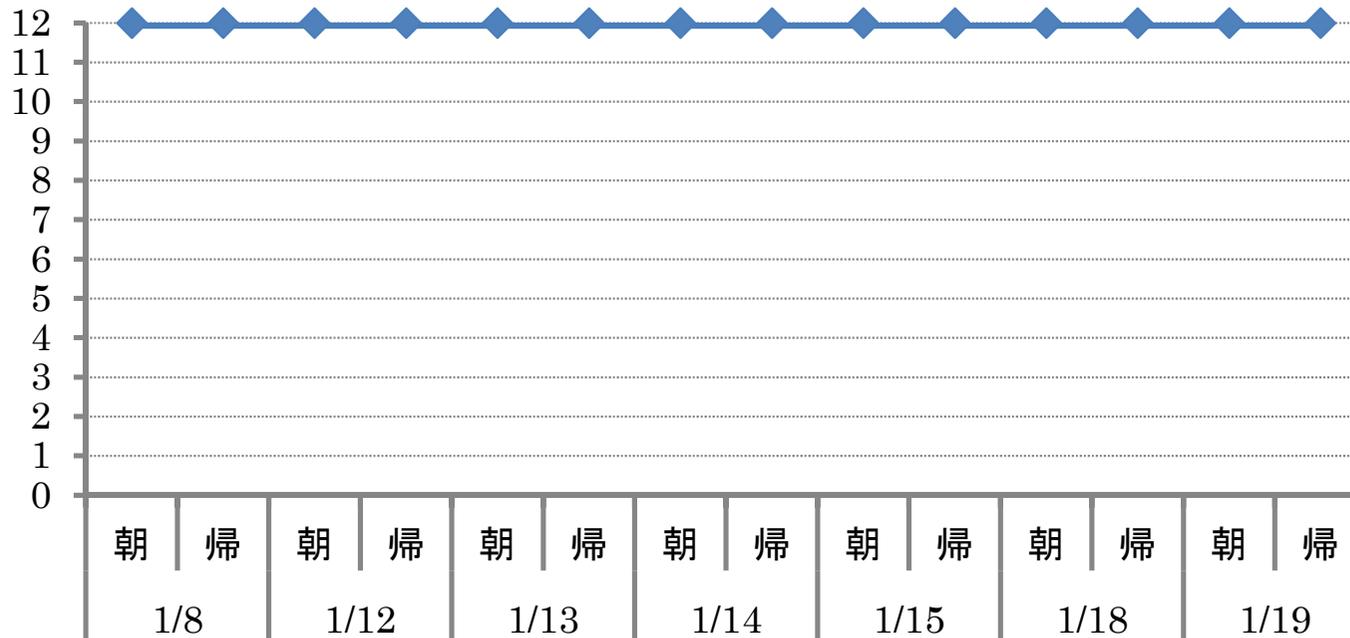
- 
- ①小便器の前に立つ
  - ②右手でチャックを開ける
  - ③両手でパンツを下げる
  - ④小便が終わるまで右手でパンツ, 左手で上着の前裾を持つ  
(ステップ2から変更)
  - ⑤パンツを上げる
  - ⑥右手でチャックを閉める

- 
- ①声かけ
  - ②声かけ
  - ③声かけ
  - ④声かけ
  
  - ⑤声かけ
  - ⑥声かけ

☆ プロンプトは声かけ→見守りでフェイドアウトさせていく

## ステップ3の成果

現在は、校内だけにとどまらず、校外学習の場や家庭との緊密な連携の元、いかなる場所、いかなる服装でも‘おしり’を出さずに排尿できるようになってきました。



達成基準：12点満点を連続10回以上とれた場合

# ここが成功のポイント



○制服，体操服等の課題分析を3ステップで行い，指導目標を具体的に決める。

○計画的なプロンプトを決定し，行動が定着してきたら，教員同士がプロンプトのフェイドアウトを行う。

○小学部全体で取り組み，児童を計画的・組織的に褒めることで，児童の動機づけが高まった。